

## 2 圏域会議

### (1-1) 第1回仙南圏域会議

【日時】令和4年6月10日(金) 9時30分から11時45分まで

【場所】大河原合同庁舎別館2階 第2会議室

#### 【委員からの主な意見】

##### (プラン全体及び感想等について)

- 「インバウンド」については、以前から課題となっている仙台空港からの二次交通について、しっかりと準備していくことが必要。
- 仙南地域には大きな観光スポットがないが、冬のウインタースポーツや四季折々の「みやぎ蔵王」をもっとPRしていくことが大切。
- 新緑・紅葉や冬の樹氷などのみやぎ蔵王は魅力的で国内の遠方からも多くの観光客が来ている一方で、県内でも樹氷を見たことがないという人も多くいる。仙南のみやぎ蔵王のブランド化をもっと強力でプッシュできたらいいのではないか。
- インバウンド客への対応策の一環として、仙台空港からの二次交通アクセスの充実に向けた取組を進めている。蔵王という地域がどうしたら客に喜んでもらえる地域になるか、感動を呼べる地域を作ろうと頑張っている。
- コロナ禍前の状況に戻ってほしいと願っているが、人員体制という面で受入体制が追い付かなくなる可能性が高いという不安がある。サービス業は土日が繁忙のため勤務を要することが多いことや不規則な勤務時間もあり、現在の求職者市場では敬遠される傾向があり、人の採用が厳しくなっている状況。そうした中でデジタル化は必須であると考えているが、どういった技術があり、自社の業務で何ができるのか、どういった効率化が図れるのか。専門の方じゃないと分からないことが多いので、そういった情報提供や支援があればありがたい。
- 蔵王について、先日、関西電力の風力発電に関する報道があった。経済活動は大事なことではあるが、ジオパーク構想がある中であり、経済と観光の整合性を図るようにしてほしい。経済と観光が一体となって地域の活性化を図るように、経済活動にも求めていく必要がある。
- プランの目標設定は妥当であり、特に観光客と地域住民が高い満足度を得るという視点はとても良い。絵に描いた餅にならないよう、ぜひ実現できるようにしてほしい。そのためには市町村の方と考え方を共有し、住民にも広め、各施設も共通の考え方を共有することが必要で、その考え方に沿って取り組んでいくことが重要。また、今後、プランの更新があると思うが、プラン作りにあまり労力をかけるよりその実現性等に力を割いてもらいたい。
- これから観光客が増えていくのは間違いない中で受入体制をどうしていくか。休みを分散させ、平日に休めるような環境作りを進めていく必要がある。
- 観光客が多く来ている成功事例を学ぶ機会はあるが、その再現性は難しいと思う。逆に人が集まっていない所になぜ人が集まらないのかを分析していくことが必要であり、その方が再現性が高いと思う。
- インバウンドについて、一生に一度しか来ない可能性の高い客が多いと考ええると、単価は高いかもしれないが、一方では、仙台などリピーターになりやすい近場の客も大事。仙台に住んでいる人は意外と県内で遊ぶことが少なく、県内の観光地には行かない。県内客が足を運びリピーターになってもらうにはどうしたらいいか、インバウンド同様に考える必要がある。

- 市町単体で取り組むより、仙南地域で一体的に取り組めるよう力になりたい。
- 丸森や蔵王など仙南地域の各市町の魅力あるスポットを繋ぐルートがあればより効果的な PR が出来るのではないかと。地域の自然や食文化、歴史などの魅力を発信していきたい。インバウンドについてはもう少し時間がかかると思われ、マイクロツーリズムで地元をもっと知っていただく取組を進めるとよいのではないかと。
- 団体の宿泊予約など戻ってきているが、対応する人材の確保が難しい。観光人材の育成や確保などの部分での戦略が必要。キャンプの利用は7～8割くらいが県内客。マイクロツーリズムとしてはとても需要があり、インバウンドももちろんだが、近隣の観光に目を向けていくことも必要。
- 蔵王という地域のブランドをもっと磨き上げて、地域の共通資源として活用していかなければならないし、多様な主体との連携が必要。花をテーマとしたガーデンツーリズムや、自転車をテーマとしたサイクルツーリズムの取組など横に繋ぐ芽が出てきており、そうした芽を縦、横、斜めに繋ぎ、ネットワーク化していくことでそれを支える人、人材の大切さに繋がっていくのではないかと。
- 日頃から連携、協力体制をしっかりと構築し、外に波及させ情報発信をしていきたい。山形や福島と隣接した南の玄関口である仙南の地理的特性を活かし、隣県と連携した取組を強化していく必要がある。
- プランについては非常に分かりやすくまとまっている。これまでの様々な課題を長期的な視点で発展させていける種まきが出来たのではないかと。策定に向けた会議についても、以前は県庁での本会議のみであったが、各圏域毎に会議体ができ、地域の課題を吸い上げていくという仕組みができたことはとても良いことだと思う。
- 5つの成果指標についても観光客の視点、県民、資源等の視点から多角的に分析したり戦略を立てているのは、プランの中身の厚みが増したのではないかと。数値目標についても、回復期、成長期の2本立てであるということも良く、目指す姿や基本的な柱等についてもきちんと項目立てがなされ、皆さんと共有できるところが良い。これから観光でエンジンをかけていくにあたり、肝心の人材をどう確保するのかは大きなテーマになると思う。

#### (仙南圏域の施策方向について)

- 圏域の施策方向性のキャッチフレーズ案について、行政向けならこれでいいが、観光客や住民向けであればもう少し短い方がよいのではないかと。このキャッチフレーズを各市町のイベント等で恒常的に使用していくなどしないと浸透していかないと思う。
- 農泊とかグリーンツーリズムなど、農業との連携の部分での表現が足りなかったかと思う。蔵王ジオパークが来年認定申請を予定しているが、アドベンチャーツーリズムや教育関連の取組と親和性が高いことから是非連携していただきたい。
- コロナ禍で別荘地に新しく入居された方がいるが、何かやりたいが町と接点がないという声も聞かれることから、接客や販売等の求人情報を別荘地の入居者へ提供することで人材が確保できる可能性もあるのではないかと。